

集会アピール

政府は、株価の上昇などを引き合いに出し、「アベノミクス」の効果を強調しているが、円安や株高などで潤っているのは一部の企業や富裕層に限られており、その恩恵は多くの働く者、国民には波及していない。むしろ国民の生活は改善されず、雇用の不安と低所得に苦しむ働く人々が増加している。

非正規で働く仲間は2000万人を超えたまま推移し、雇用労働者の約4割に迫ろうとしている。このことは、働く者の将来不安の増大のみならず、将来的には、生活保護を含む社会保障や、内需の担い手の減少につながっていくことが大きく危惧される。

このような中で迎える2015春季生活闘争は、「賃上げ」「時短」「政策・制度要求の実現」の取り組みを3本柱とした「デフレからの脱却」と「新しいサイクルでの経済の好循環実現」をはかる闘いである。デフレに終止符を打ち、日本経済を持続的な成長軌道に乗せることができるのか、あるいは、賃金水準が停滞し物価だけが上昇する悪いインフレに陥るのか、2015春季生活闘争は日本の将来を左右する転換期といっても過言ではない。

すべての労働組合が月例賃金引き上げの要求を掲げ、回答の引き出しに全力を尽くし、未組織労働者や最低賃金に波及させ、社会的な底上げにつなげなければならない。

地道で真摯な労使交渉・協議を積み重ねることで、「働くことを軸とする安心社会」の実現や、日本経済の自律的・継続的な成長をはかっていく。

併せて、すべての職場から過労死をまねくような働き方を一掃しなければならない。これに逆行するホワイトカラーエグゼンプションの導入議論が進められているが、働き方の選択肢を増やすという論理は到底受け入れられるものではない。

われわれは最後まで粘り強い交渉を展開し、賃上げで景気の底支えを実現し、「休み方」「働き方」改革による長時間労働の撲滅を実現するとともに、社会全体に闘争の成果を行き渡らせるために、総がかりで闘い抜く。

本集会を起点とし、職場・地域から闘いを巻き起こし、組合のない職場、パート・派遣で働く仲間とも連帯を深め、すべての労働者に2015春季生活闘争への参加と共同行動を呼びかけ、最後まで闘い抜くことを宣言する。

2015年 3月 7日

連合山形2015春季生活闘争勝利総決起集会